

発行日 平成10年2月25日
 発行者 江別市生涯学習推進協議会
 編集人 広報小委員会（太田佳美）
 連絡先 江別市教育委員会生涯学習担当
 <高砂町24・381 - 1062>



演技指導中の安念さん。円内は時の旅人の春日功夫さん

新しい舞台

風のまちのエチュード

第三回生涯学習フェスティエべつ

3月14日

既報のとおり、本協議会主催の「第三回生涯学習フェスティバルえべつ」のステージ部門である「風のまちのエチュード」は、いよいよ来る三月十日（土）大森駅前のおほほホールで昼夜二公演を行うことになりました。

「風のまちのエチュード」

は、サブタイトルに「音と踊り」とモノログで綴る江別の風景とあるように、音楽と舞踊と演劇が一体となった新しい舞台創造の試みであります。

ストーリーは、「シャンコ、シャンコ、シャンコ……」でお馴染みの「北海子供盆踊りうた」の作詩者である坪松一郎（元・三中校長）を時の旅人として、先史の音、明治の音、大正の音、昭和の音、男の音、女の音、労働の音、遊びの音、悲しい音、うれしい音……を訪ねながら、このまちを舞台にひろげられた人間ドラマに出合うというものです。

市民の手づくり

脚本は高田寛司（大森元町）、演技指導安念智康（高砂町）、音楽編成及び作曲佐久間良博、佐久間則子（幸町）、舞踊振

年齢を重ねるごとに人生とは実に味わい深いものと思えるようになりました。

平凡な毎日の繰り返しと思いきや、至るところに落とし穴や立ちほだかる山の如き壁が待ちうけています。

そんな時、スーザンオズボーンの歌声、彼女の一声を聴いただけでやすらぎや勇気、愛というものが、たちのぼってくるのです。生の歌声にふれたい、私自身も元氣勇気を伝えられるような何かを持ちたいと思っておりますら、奇



わたしたちも出演します
見に来てネ… ライブリーのメンバー。



加藤ミチ子さん

私のような名もない一市民に声をかけていただき、芝居・音楽・舞踊、と各分野で活躍されている方々と一体になっ

しくも、生涯学習推進協議会より「風のまちのエチュード」で詩の朗読のお話しを頂きました。

坪松一郎さんの詩を朗読

て、舞台づくりに励ませて頂いております。

それぞれの専門分野での活動を集合させ、エネルギーを持ちあい、弾けあい、たかめあつて文化の高揚に役立たせていただくことはとても光栄です。江別市のエチュードへの並々ならぬ熱い思いに心うたれ、市民の今後の発展に市民としてささやかではあります貢献できればと思っております。

付杉村正子（野幌町）、舞台美術名取清（野幌代々木町）、舞台監督春日基（美原）…。

出演は、劇団川、劇団ドラマシアターども、風のハーモニ、えべつやきもの音楽隊、ジャズダンス・ライブリー、ほか。

スタッフ、キャストとも、全て市民の編成で行われます。ご期待下さい。

三月十四日（土）開演（昼）十四時、（夜）十八時、開場は三十分前。

日々楽しむ私の生涯学習



氏家当希代さん

主人の退職をまっけて、この文京台に移り住んで、はやいもので二十年が経とうとしています。

主人共々、地区及びクラブのお手伝をさせて頂いた日々、楽しく、幸せな感謝の日々を送っております。

自治会で一人暮らしの老人への「ボランティア」

活動が誕生

した時、四人の友達とお引きうけしたおばあちゃんとの交流が、十数年続いています。

その老人は現在九十四才、ときおり短歌をつくったり、フキンを縫い私達にくださったり、また私が一番感心するのは、毎日のように手紙やハガキを書いて、自分で出しに行ったり、隣人に頼んだりしています。

訪問した折に見

せてもらいますが、実にしっかりした文や字で、びっくりいたします。絵などは敬老会の時に借りてきて、クラブの作品と一緒に展示したこともあります。

ボランティアと私

感謝し
ており
ます。

またクラブ等

も一人暮らしのお友達に時々電話し、お話しの手をさせていただいたり、邪魔させていただいたりしております。

これからは重ねても、常に好奇心を失わず、この小さな心の「ボランティア」活動を続けていくことが、私の学習活動だと思っています。
(文教クラブ友愛活動部)



「風のまちのエチュード」の台本読み風景

きずな

「遙かに海の見える丘、月の雫を吸って……」毎週水曜日の中央公民館三階の研修室に

私達の美声？が流れる。「美しい日本の童謡を歌いたい」と同じ夢を持つ仲間が集まって発足したコーラスグループ。

歳月の流れは速く、会員の平均年齢も今や七〇才？一口に練習といっても、夜の外出はなかなかシンドイものがある。

に関わる方法はないものかと、考えていた時に合ったのが「ネイチャーゲーム」です。

五感を通して自然を感じたり、気づきを目的にしたゲームです。



西原 恵子さん

私にとって野山の散策は楽しいことの一つですが、見るだけでなく、もう少し積極的

それでも仲間達は熱心に参加して、二時間の練習をこなしている。下手でもいい「背伸びせずに自然体で、精一杯楽しく歌いましょう」が合い言葉。全員が心を一つにして、お腹の底から思いつきり声を出して歌う楽しさ。歌い終わった



桑原 澄子さん

後の疲労感はまだ格別である。毎週一度集まって歌い欲談することで、私達はお互い来週までのエネルギーを蓄えているように思える。

口から出ていたような気がしますが。でも、このゲームを知ってからは前と違う自分に気づきはじめています。

草花をみてその感動を伝えると、子供達はとっても注意深く観察し、感じたままを話します。また友達同志でも伝

ネイチャーゲーム

えあってい
るようです。

本でも国際環境会議が開催され、各地で植林をして海を守ろう、重油回収ボランティアやアイドルング・ストップな

小旅行や折々の会食、たまには小さなステージに立ち「齢を忘れたカナリヤ」は「歌を忘れないカナリヤ」で、ささやかながらしっかりと歌い続けていたい。

ど、環境を守るうとする動きがでてきております。しかし、幼い子に自然の大切さを言葉で伝えるのは難しいことです。おしつけ

でありそのためには何が必要なのかを、ゲームを通してなら理解していくのではないかと考えています。

市内にも資格をもった人が増えていきます。機会がありましたら、私と共にいかがですか？楽しいですよ！
(留守家庭児童会指導員)

江別市シルバー人材センター

藤井 實(事務局長)

シルバー人材センターは、高齢者の豊かな経験と能力を活用して、自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者の就業の機会を確保し、会員に提供する高齢者の自主的な団体です。

私たち江別のセンターは昭和五十三年に現在のシルバー人材センターに衣替えをして今日にいたっているものです。

登録されている会員は、概ね六十才以上の健康人で現在七百名を擁し、年間の受託事業費も三億円を越えております。

センターの主な事業としては国・市・及び民間企業あるいは一般家庭から依頼を受けての施設等の管理、屋内外の清掃及び雑役業務、雑草刈り、庭木の剪定及び冬囲い、襖・

障子及び壁クロスの張り替え、筆耕及び家事援助サービス等の仕事をいたしております。又、これらの仕事に欠かせない技術研修も適宜実施し、会員の資質の向上にも努めております。

このほかセンターでは、小学生を対象とした補習教室を開設し、教職員を退職した会員の就業に結びつけると

二十一世紀は、高齢者が主役の社会です。

生きがいを求めて

もに、今後に向けカルチャー教室の開設にも力を入れ生涯学習推進の一翼を担って行きたいと考えております。

センターの会員は、みんな生きがいを求めて楽しく仕事をしています。



仕事の種類はいろいろあります

お話なあーに? てなあーに

思春期の子供達の恐い事件が続き、どうして「心」が育てられていないのか悲しい思いがします。幼児期の母と子がどれ位の時間をかけて互いの心を育みあったかが問われているような気がします。

「おはなしなあに」では絵本を読んだり、「えぶろんしあたい」や簡単な折紙や工作を通して母と子の共通の体験から「互いの心」を育くむ場を作っていると云えるでしょう。お母さんの膝から離れなかった子が、いつの間にか小さい友達と走り回り、そして気が付くと絵本の前できらきらした瞳で坐っているこの発達して行く様子が、全くのボランティアであるメンバーの心に響く時でもあるのです。

メンバーの入れ替わりはあっても皆で支え合ううち15年目を迎えました。参加して下さる方への何の条件も会費もないのに毎週金曜午前10時30分大麻公民館には幼児とお母さんが集まってくれます。子育て支援の一面を担っていると言えるでしょうか。いつでもメンバー募集中です。一度のぞいてみて下さい。楽しいですよ。

劇団川遊郭を舞台に新作発表

二十五周年記念「江別あだ花六軒町」

3月7・8日

あなたのお知恵と技能や経験をシルバー人材センターで生かしてみませんか。

志しのある方はどうぞ会員になってください。

お問い合わせ先* 江別市錦町三の五 三三八四―三七七一



稽古にも熱が入ります

当協議会の会員でもある市内のアマチュア劇団「川」(代表春日基)の創立二十五周年記念公演「江別あだ花六軒町」が三月七、八日両日、えびあホールで公演されます。春日基の脚本、演出によるもので、ストーリーは次のとおり展開します。時は不況のさ中の昭和八年。舞台は明治二十年代から昭和二十五年まで江別にあった貸座敷(遊郭)街、通称六軒町の銀嶺楼。主人公は、その娼妓志乃と、この街に廃娼運動をおこすためにきた若い牧師小泉の二人。この二人を中心に、楼の女将や春駒などの娼妓、牛太郎や遣り手婆などが絡みながら展開しています。

題材にした作品を発表しておりますが、今回の注目は六軒町がはじめて舞台にのこることです。大変むづかしい題材をどう舞台表現するのか、団員の活躍が期待されます。

▲日時 三月七日(土)PM二時・PM七時/三月八日(日)PM二時

▲会場 市民文化ホール(えびあホール) 大麻中町

▲入場料 一般千八百円(当日二千円) 中学生以下千円(当日千二百円)/チケットは市民会館や公民館などで取扱。

ガイドブックNo.3 発刊

生涯学習推進協議会では、市民の様々な学習活動を支援するため、市内の学習情報を調査してきました。

3月発刊予定の「生きること学ぶこと―江別市生涯学習ガイドブックNo.3」は、その調査結果をまとめたものです。主な内容は「団体・施設編」として、市内の各種団体・施設の紹介となっています。「何か新しいことに挑戦したいが、仲間に入れてくれるサークルはあるのか」「仲間とサークルをつくったが場所を貸してくれる施設はあるのか」などの疑問をお持ちの方、ぜひ、ご覧ください。

- ◆団体情報…芸術文化、スポーツ、ボランティア、家庭生活、国際交流など広範な分野の団体・サークル。約400件。
- ◆施設情報…文化、スポーツ活動に利用できる、あるいは見学できる施設。約50件。
- ◆配布…公民館等公共施設で無料配布。3月末予定。
- ◆詳細…〈事務局〉市教委生涯学習担当 ☎381-1062

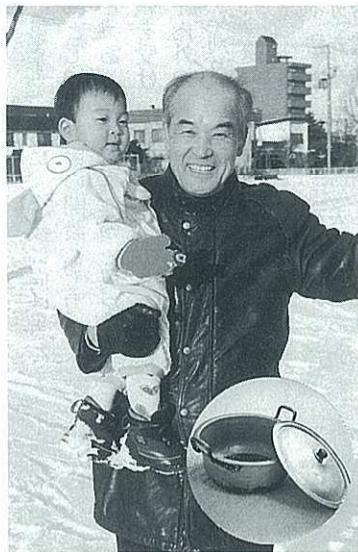
私の宝物

アルミニウム鍋 柳原秀樹

この古いアルミニウム鍋、汚れ凹んだ変哲のないものですが、半世紀も昔の少年時代、我家の日々の食事を支えた貴重な鍋なのです。

戦いに敗れて旧植民地樺太にとり残された私達はソ連の治下に置かれ故国に帰る日を待っていました。約五

十万の孤立した樺太同胞、故国日本も戦禍いちじるしく、荒廃と混乱の極みでした。二十二年春、ようやく真岡港に引揚げ船が接岸、日本へ帰る日が来ました。



帰るといっても樺太生まれの私には初めての日本、祖国への旅だったので。引揚者の携帯できる荷物は実に限られたもので確か布団のみが一家に一個それぞれ

北海道へ帰った翌日から炊事をしなければならぬのですからこの鍋も一緒に日本海の船旅を経て持ち帰ったようです。とほしい配給の食糧を煮炊きし、懸命に一家の栄養確保に汗を流した母の姿をこの鍋と共に思い出します。

サハリン時代は親しくなったロシア婦人を招いてポルシチをこの鍋で作りに来て共々楽しんでました。

背のリュックが全てでした。我家では母の背は嬰兒の妹です。それでも誰一人欠けることなく上陸、函館の土を踏み得たことは何よりの幸せでした。

世界ではまだ貧困や戦乱は跡をたちません。ニュースでおびたらしい難民の姿を見る度に遙か昔の私達の姿を彷彿とさせます。

(大麻園町在)



市内学習ポイント⑧

(財)草野河畔林のトラスト財団

貴重な緑の宝庫です。

国道275号線沿いの石狩川と篠津川に挟まれた草野「河畔林」には、開拓以前からのアカダモやアオダモ、オニグルミ、ハルニレなどの天然林が生い茂り、カモやコハクチョウをはじめとした野鳥、キタキツネ、リス、ウサギなどの小動物が多く生息している。ここには一〇〇年は経っている大木が700本以上、植樹も2,500本を数え、グラウンド一面には芝生が張りつめられ、ほどよい起伏と梢

から差し込む木漏れ日は、都会の心を和ませてくれます。林内にはログハウス風の小屋が建っていて、自然学習のために植物や野鳥などの図書が200冊余備えつけられています。◇入場は無料だが、事前の申込が必要◇草野「河畔林」トラスト財団の連絡先 ☎381-0550 / 上江別西町1番地



草野河畔林の位置図

あなたが主役

まちづくり生涯学習

2月12日 研修講座盛會裡におわる

都市高齢社会

江別市自治会連合協議会との共催で市教委が開催した「生涯学習研修講座(Ⅰ) (Ⅱ)」は、去る2月12日(木)野幌公民館大ホールで盛會の裡に終了いたしました。

研修(Ⅰ)は、北海道大学文学部教授金子勇さんの「あなたが主役のまちづくり」と題し、現代社会の特性である「都市高齢社会」における家族の変容と地域の変容からときおこし、そうした中における自治会活動の活性化はいかにあるべきかに触れたものです。当日の参加者約50名のうち、

伝統的生活文化

研修(Ⅱ)は、北海道大学高等教育機能開発総合センター助教授で、生涯学習を専門と



21Cのまちづくりを学ぶ

今回の研修会は、生涯学習のまちづくり推進における自治会活動の重要性を、あらためて知らされたものでした。

編集後記

◇日曜日の12時、野幌公民館のホールは熱気であふれる。

3月14日の公演をまつ、風のまちのエチュードの練習風景。半袖の人、短パンの人、ハダシの人、ここはもう春。○柳原さんの鍋の宝物、現物

はまだまだ使える。ニギリ矢印のアルミニウム鍋で、フタを開けると柳原さんの想いが飛び出してくる気がしました。

◇冬季オリンピックで、北海道選手の活躍が光ります。暗く沈みがちだった道民に、夢と勇気を与えてくれました。